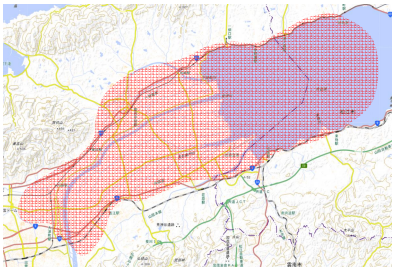
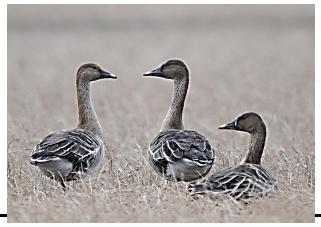
生物・生態サイトカード

通しNo.	B-7	更新日	2025/3/19
サイト名	天然記念物マガンとヒシクイ渡来地		

基本情報	区分	☑動物　　□植物	
	生息地	出雲市斐川町(斐伊川河口部・出雲平野)	
	分類	マガン・ヒシクイ:国指定天然記念物	
	管理団体／保護団体／モニタリング		
	留意点	マガン:しまねレッドデータブック(準絶滅危惧)	
サイトの解説	生物・生態	わが国には、10種のガン類が渡来した記録があるが、古来から現在まで群として定期的に渡来するのはマガンとヒシクイ、コクガンの3種である。この内マガンが約20万羽と最も多く、そのうち約9割以上が伊豆沼などの宮城県北部地域に集中渡来している。他の集団渡来地も東日本がほとんどを占め、西日本では斐伊川河口部を中心とした斐伊川水系が唯一の集団渡来地となっている。宍道湖の湖心部をねぐらとしており、夜明けとともに湖心から出雲平野の餌場へと数十から数百羽の群れで飛びたっていく。かぎになり竿になり集団で飛び交うマガンの姿は圧巻で、冬の風物詩として多くの人の目を楽しませてくれる。 斐伊川河口一帯におけるマガンの渡来は、1978年まではほとんど見られなかったが、1979年以降少しずつ増え続け、1999年には1,500羽を超し、現在では2,500～3,000羽のマガンが渡来するようになった。マガンは、北日本を中心に渡来越冬しており、斐伊川水系を除けば、福井平野がわが国における西限の越冬地となっている。このように、宍道湖西岸一帯は、西日本唯一とも言えるマガンの越冬地であり、全国的にも注目されている。このような特異な分布が見られるのは、一帯の自然環境が良好なことと共に、日本海を直接越えて渡来するなど、北日本とは異なったコースで渡来することなどによるものと思われる。 マガンと同じく国の天然記念物に指定されているヒシクイも、約300羽がシベリアから渡来しており、電波発信機を装着した調査で日本海を一気に超えて渡来することが分かっている。このような渡来コースとともに、宍道湖西岸に渡来するヒシクイは東日本に渡来する個体群と亜種レベルの構成が異なっており、学術的にも注目されている。	
	地形・地質、歴史・文化等	出雲平野の東は、標高が低いため斐伊川によって洪水氾濫がくり返されてきた。江戸時代に斐伊川の流路を人工的に変更させ、洪水で運ばれた土砂を宍道湖の干拓に利用した、いわゆる川違えとよばれる土木工事が継続的に行われた。現在、この場所には水田地帯が広がっており、渡り鳥の重要な飛来地となっている。	
写真・図等	宍道湖から飛来するマガンの群れ	水田から飛び立つマガン	
	マガン	 ヒシクイ	
参考文献	佐藤仁志(2015) 松江市史 通史編1自然環境・原始・古代(松江市史編集委員会): 129-131. 松江市. 佐藤仁志編(1985)宍道湖の自然. 山陰中央新報社. 建設省中国地方整備局出雲工事事務所監修(1997)斐伊川水系の鳥類. 社団法人中国建設弘済会. 70-72.		